

H23 JA 高岡管内の品質低下要因について～重点技術対策を中心に～

追加穂肥対応不徹底

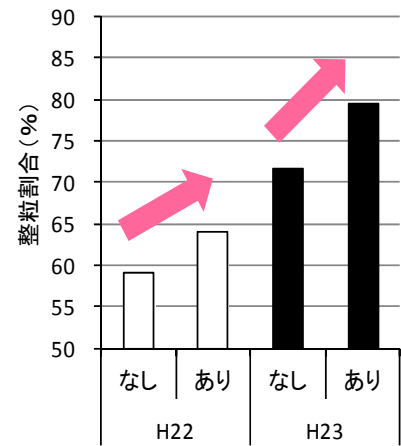


図 1. 追加穂肥の有無と品質 (改良肥料試験ほ、葉色は目標を確保)

- 追加穂肥が必要と判定されたにも関わらず、無施用のほ場が全体の14%ある (図 2)
- 追加穂肥が不必要と判定されたほ場が全体の54%ある (図 2)。
- 葉色が目標以上でも、追加穂肥施用で品質は向上する (図 1)。

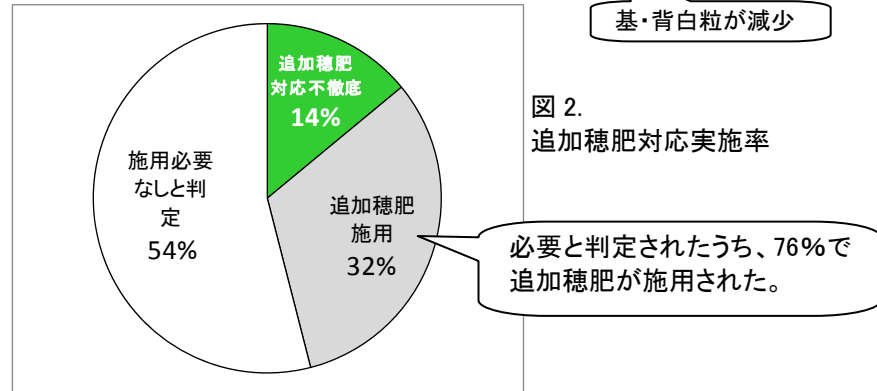


図 2. 追加穂肥対応実施率

土づくりの不徹底

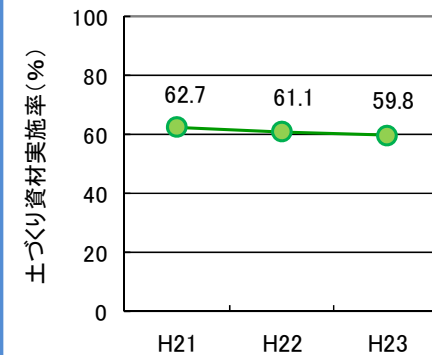


図 3. 土づくり資材実施率

- 土づくり資材の実施率は横ばい (図 3)
- 実施率は地区ごとのバラつきが大きい。H22 より上昇している地区がある一方、減少している地区がある (上昇 14、減少 9)。

登熟期の水管理不徹底

- 適期落水の実施率は低い (図 4)。
- H23 は成熟期の葉色 (SPAD 値) が低く、穂揃期からの低下が大きい (図 5)。

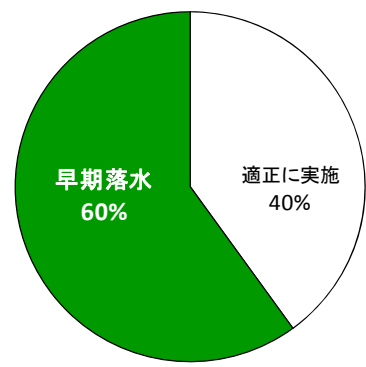


図 4. 適期落水の実施率 (タサップ 8+チェックシート 17)

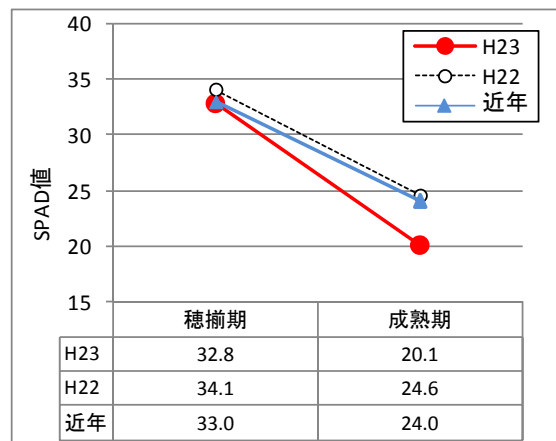


図 5. 年次別の SPAD 値

幼穂形成期の葉色低下が緩慢

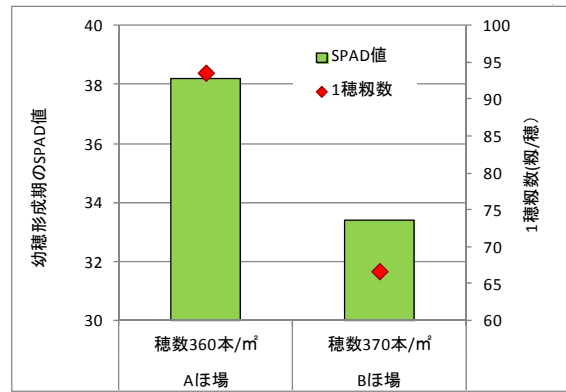


図 8. 幼穂形成期の SPAD 値と1穂粒数

幼穂形成期の SPAD 値が高いと、1穂粒数は多い (穂数が同レベルのほ場での比較)。

老化苗 (育苗日数長い)

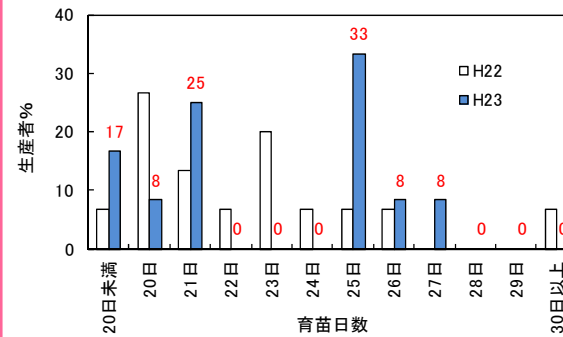


図 6. 育苗日数の分布

- 育苗日数が 25 日以上と長い経営体が多い (図 6)。
- 育苗日数が長いと、中干し開始時期の茎数が少ない (図 7)。

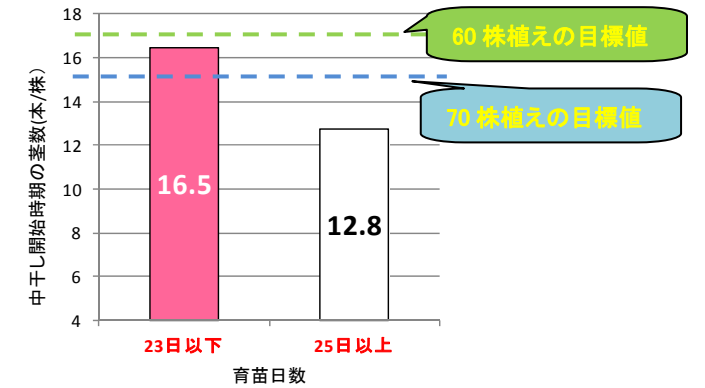


図 7. 育苗日数と中干し開始時期の茎数 (H22, H23)

初期の水管理

- こまめな管理がされていない。
- 浅水管理のタイミングと除草剤の散布 (深水) が重なる。

初期分けつ不足

穂数不足

1穂粒数増加

養分の競合

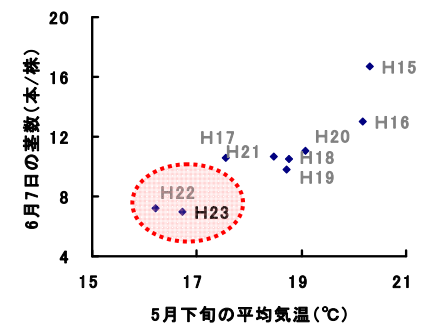
表 1. 年次別の茎数、穂数、着粒数

年次	6月中旬 茎数 (本/m ²)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒/穂)	m ² あたり 着粒数 (粒/m ²)
H23	231	358	82.4	29,600
H22	278	346	86.3	29,860
近年	309	387	78.6	29,460
目標	320	400	70	28,000

- 中干し開始時期の茎数は H22 よりも少なかった (表 1)。
- 茎数は 6 月下旬から急激に増加し、昨年より多くなったが、穂数は近年より少なく、目標より極端に少ない (表 1)。
- 1穂粒数は昨年より少ないものの、目標より極端に多く、m²あたりの着粒数も過剰となった (表 1)。

移植時の強風・その後の低温・寡照

- 5 月下旬の気象は初期茎数への影響が大きい。
- 昨年同様、初期茎数を確保しにくい条件だった。



乳・心白粒

品質低下
コシ1等比率 71.3%

基・背白粒

登熟初期の高温

表 2. 「コシヒカリ」登熟期間の気

年次	出穂期 (月/日)	出穂後日数 (日)		
		1~10	11~20	21~30
H23	8/5	27.8	24.7	25.3
H22	8/6	27.7	28.0	28.0
近年 (H17~H22)	8/7	26.9	25.7	24.7

出穂後 10 日間の気温は、昨年と同様に高かった。出穂期が早いほど気温は高かった。

コシヒカリの早植え

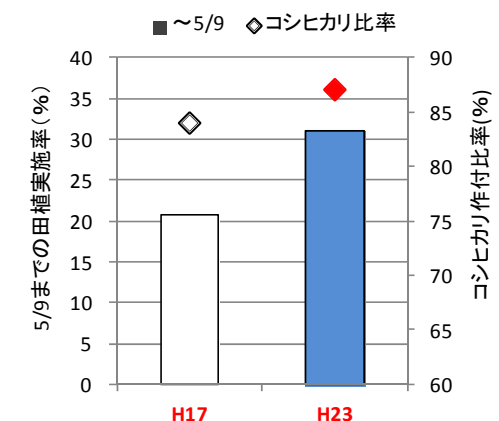


図 9. 5/9までの田植実施率 (コシヒカリ) とコシヒカリの作付比率 (曜日配列が同様な年次との比較)

早生・晩生の作付が少ない (早・中・晩 = 10% : 85% : 5%)

稲体の栄養凋落